

## 読売新聞 きょう（5月2日）のイチ押し

### 社会面 知床観光船 「条件付き運航」批判

北海道・知床半島の沖合で観光船「KAZU I（カズワン）」が沈没した事故で、運航会社「知床遊覧船」の桂田精一社長（58）が、悪天候が予想される中で出航した判断を「条件付き運航」と説明したことに、地元の同業者から批判が出ています。同業3社は悪天候が予想される場合は欠航するといい、「安全を軽視していると勘違いされる」と懸念しています。

- ★ 桂田社長は4月27日の記者会見で、強風・波浪注意報が出ていることを知りながら、出航後に海が荒れれば引き返す条件付き運航を行ったと説明していました。これに対し、同業他社からは「悪天候が予想される場合は出航しない」と強調しています。
- ★ 地元業者らは事故を受けて、安全運航のためのルールについて、出航の可否を港周辺の天候だけでなく、沖の気象状況も判断材料にするなどといった見直しを検討しています。

### 社会面 ベランダ 幼児転落注意

幼い子どもがマンションのベランダから誤って転落する事故が、各地で相次いでいます。過去の事故の分析では、窓を開ける時間が多くなる初夏と秋に多く起きています。新型コロナウイルスの流行で、換気の頻度が増えている上に、外出気分を味わうためベランダにアウトドア用のイスなどを置くことも増えていて、転落のリスクが高まっているとして消費者庁が注意を呼びかけています。

事故を防ぐには、ベランダにテーブルやイスを置いたままにしないことが大切です。子どもの手が届かない高い位置に補助錠をつけることも有効です。防止のポイントをイラストで分かりやすく示しました。

### 他紙と比べて

大型連載企画「岐路の資本主義」の第2部が、1面と特集面で始まりました。今回のシリーズのテーマは「独占」です。競争を重んじる資本主義が技術革新を促し、誕生したデジタル空間で、巨大IT企業が市場を支配するようになりました。人々の生活に欠かせない存在となっていますが、その影響力ゆえの深刻なゆがみも生じているようです。